

熊本地震を振りかえり 明日への備えを考える

グランガーデン熊本 かたらん会

平成28年4月14日と16日 熊本をかつてない規模の地震がおそいました。
熊本各地において、甚大な被害が広がる中、グランガーデン熊本のご入居者さまにおかれましては、
8名の方々が軽いけがを負われましたが、幸いにして重傷者の方はいらっしゃいませんでした。
しかしながら、今なお続く余震は2000回以上を数え心の傷なども大きなものとなっています。
そうしたなか、この震災を今後の教訓としていくために、ご入居者の皆さまにお話を伺いました。



溝口 浩さま
(88歳)



細井 幸子さま
(84歳)



田中 洋子さま
(85歳)



岡本 義幸さま
(84歳)



お話を伺った
グランガーデン熊本 支配人
松岡 祐二さん

今回の震災に際して、福島県の有料老人ホーム「いわきふるさとの楽園」よりお見舞いのお手紙と、寄せ書きが書かれた“おきあがりこぼし”が送られてきました。



特別寄稿



熊本地震後にご入居された 下田さまご夫妻

昨年12月の体験入居時に入居を申し込んだものの、地震発生後の6月入居となりました。ご入居者の皆さんに地震が発生した時のグランガーデン熊本の話聞きまして、早くここに入居しておけばよかったと思いました。今は入居して本当に安心しています。

前震、本震共に夜間に発生しましたが、当時どのような様子でしたか？

溝口 前震の時は、テレビを見ていました。激しい地震にショックを受けましたが、すぐに我にかえて仏壇や額縁を一通り片付けました。そして、その翌々日に本震が。当時のことは、どういう心理状態だったのか、どうしても思い出せません。それほど放心状態だったのでしよう。

細井 私も本震の時は、何が起きたかわかりませんでした。物が倒れてきました。幸いベッドから離れていたもので、ぎりぎり難を逃れました。

田中 我が家は4階なのですが、「ここにいれば大丈夫、安心だ」と思っていたのであまり心配はしませんでした。本震の最中に、館内に暮らす友人から「揺れて恐いけれど、どうしたら良いか」と、連絡がありました。慌てずにベッドの下に潜るようにアドバイスしたくらいです。

岡本 多少の落下物はありましたが、建物の頑丈さに驚きました。地震後、すぐに統括会社と連絡を取り

合って支援を受けられたので安心できましたよ。

地震発生直後、どのような行動をとられましたか？

溝口 ガラスの破片が散乱していたので、まずは足を切らないよう下駄箱まで行き、靴を履きました。

細井 確かに、私も上履きの用意をしました。それから、出入り口の確保です。以前の宮城沖地震の際に、扉が歪んで開かなくなると聞いていたので……。日頃から、非常用の持ち出し袋と水を枕元に用意していたんです。

溝口 グランガーデンのスタッフのみなさんは、どのような動きをとられたのですか？

支配人 夜間の当直スタッフが、まずは手分けして安否確認を行いました。それと同時に自宅にいた職員の呼び出しを行いました。交通機関がマヒしていましたが、中には歩いて来た職員もいました。

溝口 スタッフの方の自宅も大変な状況だったでしょうに、よく来てくださいましたね。

だったので、何の心配もなく過ごすことができました。むしろ、お忙しく対応にあたる皆さんの健康が心配だったくらいです。



岡本 他の施設では「やっつことしておにぎり一つ手にできた」という話も聞きましたが、私達には人数分のお弁当が用意されました。この施設の「企業能力がどれだけか」が、非常時に発揮されましたね。

細井 あえて言うならば……。地震後すぐの安否確認が玄関から「いかがですか」という声かけでした。「大丈夫です」とはいったものの、部屋の中がごたごたしていたので中に入って確認してもらえば、もっと安心した気もしました。

今後、もしもに備えてどのようなサービスが必要だとお考えですか？

岡本 食器棚などの戸が開いて、中のものが割れてしまったという声を多く聞きました。ドアフック等を

岡本 非常事態ですから、交通状態も含め、どのようなことが起こるか分かりません。遠距離の職員の方は大変だったでしょう。



支配人 ご入居者の皆さまのなかにも大きな怪我をされた方がほとんどいらっしゃらなかったのが不幸中の幸いでした。

田中 本震は真夜中に起きりましたが、もし昼間に起こっていたら、ここはもちろん熊本中で多くの怪我人が出ていたのではないのでしょうか。

岡本 数名の方がお怪我をされたようですが、みなさんどのような行動をされていたのでしょうか？

支配人 転倒されて手首を怪我され

利用して、戸が開かないように出来るといいですね。

細井 少しの間、エレベーターが停止していましたが、お食事のときには飲み水も頂けて、すごく助かりました。

田中 お水は大浴場の前の廊下に置いてありましたよね。私は力がなくて運べませんでした。たまたま孫が来ていたので、運んでくれたりしましたけれど。

溝口 普段はどの新聞も各部屋まで配達されているのですが、エレベーターが停止していた期間、新聞社によっては下のメールボックスに入れられていました。階段を使って取りに行くのは大変でした。



た方などがいらっしゃいました。皆さま、不意の出来事に驚かれたようです。お部屋をまわると、家具などが倒れていることも多かったのですが、もっと多くの方が負傷されたのではと思います。ご無事だったので安心しました。

田中 行動的な方はすぐに動かれるのかもしれない。私はのんびりなので、外に出ようとは思いません。特にここは建物がしっかりしていますからね。

支配人 お怪我はされていなくても、一人で過ごすのが不安ということで各階の談話スペースに集まってこられた方も多くいらっしゃいました。

スタッフの対応に関して何かお気付きの点はなかったでしょうか？

岡本 例えばお風呂の水、食事の準備など、細かく対応していただきました。他の施設では、そういった面が非常に不自由だったと聞いています。とても有り難かったですね。

田中 朝・昼・晩、三食ご用意をいた



今回の震災を振り返って一言お願いいたします。

細井 スタッフの皆さんの一生懸命な姿が、本当に有難かったです。頼りになりました。

岡本 今回の震災後、この施設の評判を聞いて入居した方もいらっしゃいます。これからも安心を届けられる施設であって欲しいですね。

田中 私達が気づかないほど細かな「こんなところにも」という所まで被害状況を見て頂きました。修繕には時間がかかると思いますが、その細やかさに安心できました。

溝口 「寄らば大樹の陰」ということわざもありますが、本当に安心できる施設に入居できていると確信しました。

設備

エレベーターでもし災害にあった場合。



ご入居者さまがエレベーターを利用時に、火災や地震等にあい停電でエレベーターが動かなくなった場合でも、自家発電設備を利用してエレベーターを動かし、避難階まで移動していただき、エレベーター内の閉じ込めを防ぐようにしています。



防災センター

災害に対する24時間365日の監視体制。

グッドライフグループは、各施設の防災センターや事務所・警備員室において、防災監視盤や複合火災受信機等を設置し、災害等への監視や消防設備の制御などを24時間・365日体制で行っています。
火災による温度上昇など、異常を感知した場合、防災センターに自動で通報され、防災センター員等による現場確認をただちに行い、ご入居者さま等の安全確保を行います。

訓練

もしものに備え、日ごろから訓練を行っています。

グッドライフグループでは、火事や地震、台風等の災害に対して可能な限り未然防止を図るとともに、万一発生した場合に備え、ご入居者さま、周辺住民、従業員等の安全確保を第一に、毎年、防火・防災訓練を行っています。

グッドライフグループは地域の消防署と協力体制を結んでいますので、ご入居者さまとともに、防災講話、消火活動、人命救助の処置等の体験、はしご車などに出勤いただき、職員を中心に避難誘導など、日ごろから訓練を行っています。



負傷者の救出訓練



防災センター員による指示訓練



消火器での初期消火訓練

知っておきたい防災マメ知識

- 新耐震基準とは — 建築基準法上の最低限遵守すべき基準として以下を目標とした基準です。
*中規模の地震(震度5程度)…ほとんど損傷せず、建物の機能が阻害されないこと
*大規模の地震(震度6~7程度)…人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じないこと
- 液状化現象とは — 地震の際に、地下水位の高い砂地盤が、振動により液状化になる現象。これにより、比重の大きい構築物が埋もれ、倒れたり、地中の比重の軽い構造物(下水管等)が浮き上がったりする。

キューデン・グッドライフの取り組み
もしもの備えを万全に
日々の暮らしに安心・安全を
お届けしています。



地震対策

グループ全ての建物が安心・安全の耐震性を確保した施設です。

グッドライフの地盤・基礎の構造



キューデン・グッドライフグループの全ての施設は、新耐震基準により設計された建物ですので、震度6~7の大規模地震が発生した場合でも、倒壊に至らない耐震性を備えています。福岡浄水については、近傍の警固断層を考慮し、1.25倍に地震力を割増した耐震設計を行い、鹿児島では液状化対策のため、東福岡では地耐力確保のため、各々地盤改良を行ないました。

先般の熊本地震の状況



外壁に一部損傷がりましたが、安全に関わる構造上の問題はありませんでした。



室内では化粧タイルの剥落が発生しましたが、その他の大きな損傷はありませんでした。

電気対策

停電の際も自家電源に切り替わり電力を確保します。



外部からの電力供給がストップした場合においても、施設に備え付けの自家発電設備が短時間で自動的に切り替わり、最低限の電力確保をしています。施設内の共用部の一部照明や放送設備等に電力供給できるようにしており、台風などの停電時においても、約3~9時間は稼働可能です。

各施設における個別の訓練だけでなく、「キューデン・グッドライフグループ危機管理規程」をもとにグループ内で指示伝達・情報連絡訓練を行い、速やかな支援、復旧を図るための組織体制を構築しています。

